

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人全体の基本理念とは別に、グループホーム独自の「笑顔・まごころ・思いやり」を中心とした、利用者・家族・地域・職員の絆を深めた理念に取り組んでいる。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日の朝礼時に、法人とグループホーム独自の理念を唱和することで、日々の業務に気を引き締めて再確認し、気持ち新たに組み立てようとしている。</p>	<p>事務所内1か所、フロアの利用者が集まり、見やすい場所と玄関に各1か所ずつ、利用者・ご家族・面会者の目線に配慮して、大きく掲示している。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>以前から「笑顔・まごころ・思いやり」の理念はあり、家族に発信していたが、8月下旬にグループホーム独自の新しい理念(地域を入れた)を作成したばかりで、掲示したところである。よって説明不十分である。</p>	<p>○</p> <p>9月2日の運営推進会議や9月の家族会時に、ご家族・地域の方々に説明する。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>毎日の散歩時に、地域住民に挨拶したり、近隣の方がグループホームの窓を覗き、家庭菜園でできた野菜を持ってきてくださっている。特定の近所の方が立ち寄ってくださったり、雑談するが、日常的になると不十分な所がある。</p>	<p>○</p> <p>地域交流の第一歩として、5月に1日レストラン開催の中で、多くの地域住民の方が参加していただけた。これからも、地域交流を深めるために、運営推進会議を活用しながら、地域との絆や気軽に立ち寄っていただけるような馴染みの関係作りに取り組んでいきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会・老人会には入っていないが、町の文化祭へ作品を出展したり、法人全体で行っている夕涼み会などを通して、地元の方々との交流に努めている。</p>	<p>○</p> <p>桑山地区などが行っている街角喫茶に出かけたり、その他、運営推進会議を通して、地域活動の情報をいただきながら、一つでも参加できるように努めていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域高齢者等に対しての地域貢献が、事業所なりに取り組んでおらず、今後の課題である。	○	運営推進会議の中で、代表者より「薬の勉強会やリハビリ体操、認知症の勉強会などを地域の住民に声かけして、(地域交流含め)一緒に参加してもらってはどうか」とのアドバイスいただき、今後検討していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月サービス向上委員会を開催して、去年の自己評価と外部評価を活かしながら、サービスの質の向上と継続ができるように、改善項目シートを活用して、実践できる改善に取り組んでいる。		職員全員で自己評価に取り組み、改善項目シートをもとに見直し、さらなる向上が図れるよう話し合ったり、実践してきた項目を再評価して、職員の意識を高めている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在2回目(6月・9月)の運営推進会議を開催した中で、サービスの実際や外部評価への取り組みを報告して、意見をいただいている。		評価への取り組みの中で、薬の勉強会を年2回開催していることを伝えると、運営推進会議の代表者より、地域交流の一つとして、住民も参加できるようにしてはどうかとアドバイスいただいたので、今後活かせるよう取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも行き来する機会を作れるよう、運営推進会議で協力していきたい。	○	運営推進会議代表メンバーである市職員の方と共に、サービス向上へ取り組めるよう協力願いたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員が外部研修で参加し、学ぶ機会があったが、職員全員が権利擁護の制度や理解・活用について学んでいない。	○	今後勉強会を開き、職員全員が理解できるようにしていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会活動の中で、「身体拘束廃止宣言」を宣言。管理者・委員長中心に指針や法律を学んでいる。		毎月、身体拘束廃止委員会を開催し、指針を中心に、生活改善策や虐待・身体拘束について学び、議事録を作成している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ際、ご家族(契約者)に十分な説明を行い、納得いただいたうえで、契約を行っている。</p>	<p>特に、個人情報に関すること、身体拘束に関すること、解約の説明、利用料について等を十分に説明している。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者や職員が、一人ひとりの意見や訴え、不満を傾聴できるように、職員と利用者がゆったりと話せる時間を作っている。</p>	<p>利用者の意見や声を、ケース記録や申し送り簿等に記載して、全職員が把握できるようにしている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月第3日曜日の家族会と月2回の状況報告、日々の状況を記入した状況報告シートを送付、面会時にも利用者の様子を報告している。小遣い帳にはレシートを貼って、毎月ご家族には確認とサインをいただいている。</p>	<p>担当職員が責任を持って、担当利用者のご家族に報告している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第三者苦情申し立て機関の設置、運営推進会議を通して、外部に意見を言えるよう機会を設けている。</p>	<p>内部では意見箱の設置、面会時、家族会や状況報告時に意見をいただき、意見や苦情が発生した場合には、迅速に対応できるよう、緊急職員会議を開催して話し合っている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のケアワーカー会議に職員の意見をまとめ、月1回の代表者会議に職員の意見や要望を発言する機会があるが、反映できていない点がある。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の生活の流れに沿った職員の勤務ローテーションを組み、実際に支援できる職員配置となっている。行事等には必要な人数確保をするため、通常配置人数より多く調整している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人全体の異動や、ユニット間での異動は定期的にある。異動時は、家族に家族会時や便りで説明している。利用者には、その都度新しい職員を紹介してダメージを防げるよう、日々、他の職員が配慮しフォローしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月1回の認知症勉強会をはじめ、外部研修の内容は個々の実績や職種・役割、能力・勤務年数に応じて参加し、資格取得も介護職員としての育成として、働きながら必要な研修は勧めている。</p>	<p>正職員のみならず、パート職員も外部研修会に参加している。研修会に参加した職員は、ケアワーカー会議開催時に、報告する機会を設けて報告している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会にて過去1回相互事業研修を行ったが、それ以後、交流する機会や相互訪問等の活動の取り組みを行っていない。</p>	<p>○</p> <p>管理者会議やグループホーム研修参加を通して、運営者同士が話し合う機会を設け、同業者との交流する機会が持てるよう取り組んでいく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>正職員とパート職員の分け隔てなく、グループホームの一員として、ケアワーカー会議時や個別に職員の悩みや相談にのり、ストレス解消策に取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務年数や日々の勤務実績等に応じての研修参加や、資格取得に向けて意欲を引き出せるように、勤務調整しながら勧めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居調査時やグループホーム見学の際に、生活に対する不安やグループホームのことについて、分かりやすく説明し、少しでも納得と安心できるようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居調査時やグループホーム見学の際に、生活に対する不安やグループホームのことについてわかりやすく説明し、少しでも納得と安心できるようにしている。また、本人には聞かれたくない内容については、別室で対応を図っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの時や入居調査時に、まず医療関係の受診が必要な場合や、申し込み相談時に料金関係や身体問題の相談を受けた時には、優先順位を含めた必要な助言をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら、グループホームを利用予定の方が法人のデイサービスやショートステイ利用中に、グループホームを気軽に訪問できるよう各部署と相談しながら配慮したり、その他でもいつでも見学できるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者主体とすることはもちろんのこと、その方の「できる力」や「残存機能」を活かし、穏やかに生活する中で、共に喜びや怒り、悲しみを共感しながら、馴染みの関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会・行事の参加・病院受診同行協力など、利用者との関係を断ち切らず、職員・家族・本人全員で支えあう関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症の状態や身体状況・健康状態を含めた状況報告や状況報告シート、また、面会時に本人の気持ちを代弁したり、個々の家族間の問題に応じた対応を、担当職員が中心になって支援している。		面会回数が少ない家族や家族会の不参加が続いている家族には、担当職員並びにサービス計画作成者中心に、家族と話し合う機会を作り、互いにより良い関係や距離を保ちながら、支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の友人関係、行きつけの場所(喫茶店・美容院・スーパー)を本人や家族に情報をいただきながら、できる限り、今までの暮らしを変えず、友好関係が断ち切れないよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の人間関係・友人関係、トラブル発生時や孤立傾向にある方の早期把握に努め、食事の座席位置を工夫したり、職員がフォローしたり、間に入ってきっかけ作りを支援し、共同生活が円滑に運ばれるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後の長期入院先のお見舞いや今後の支援相談、他のサービス利用や方法・手続きの相談、アドバイスをしている。	○	退居後も介護支援経過票に記載して、記録に残していく。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、利用者に生活に対する意向を、その都度傾聴して、ケアに反映できるようにサービス計画を立案している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居調査時や入居後も、家族会や状況報告、面会時に、本人や家族から情報をいただき、継続した暮らしの支援に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のケース記録や日誌、申し送り簿、ケアワーカー会議などで、意見交換や情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族に生活に対する意向を聞いたうえで、意見や要望、希望を反映した介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居調査をもとに暫定ケアプランを作成、その後、グループホーム生活を送る中でケアプランを立案して、介護保険の期間に合わせた計画を立てている。本人の状態が著しく変化した場合は、再度家族と話し合い、ケアプランを随時作成している。		暫定ケアプラン時は、家族に説明と同意を得て、交付している。ケアプラン説明時の家族との話し合い内容は、介護支援経過に記載して、記録に残している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録が日々のサービス検証表にもなっているので、日中・夜間のケア対応記録や処置記録、状態の変化など、細かく色分けして、モニタリングやアセスメントに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族のその時々々の意向に応じて、特別養護老人ホームへの電気治療や、希望者の歯科往診、整形の往診など、柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの訪問や地域交流時の協力はあるが、民生委員・警察、消防等の地域資源の活用や協力は不十分である。	○	運営推進会議開催時、代表者である民生委員の方との話し合いや、必要に応じて協力依頼をお願いします。今後、消防・警察の方との話し合いの場を設ける機会を作り、地域の方と共に、利用者を支えていく支援に取り組んでいく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	過去にも他のサービスを利用したことはなく、介護保険以外のサービスとの連携は不十分である。	○	運営推進会議の代表である市の職員(地域包括支援センター)から、アドバイスや意見をいただきながら取り組んでいく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の代表者である地域包括支援センターの職員と、以後必要に応じて、会議などを利用しながら、協働していくことが望まれる。	○	運営推進会議開催時に、話し合っ取り組んでいく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族には、入居調査時、入居契約時、入居後のそのときの状態に応じて、両者が納得や信頼されているかかりつけ医の継続受診が行えるよう、確認と支援をして、家族にも都合がつけば、受診同行協力願いをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>今後、法人の看護職員と相談や話し合う機会を持って、気軽に相談しながら、職員も判断対応の力を育てていけるようにする。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>話し合ったことは、全て個人記録に記載している。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>できる限り家族に受診同行を願い、本人と家族、医者、担当職員全員で話し合えるように、受診同行をなるべく多くの家族が協力願えるよう、再度家族会時に話し合う。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する誓約書を、職員・利用者・ご家族と契約を交わっている。また、毎日の朝礼時に法人の基本理念である「個人の尊厳を守ること」を復唱、心得ながら日々取り組んでいる。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の意見や訴え・希望・要望等に対して、本人の能力や状態に応じた支援と対応をしている。訴え・希望・要望は、個人のケースやケアワーカー会議、申し送り簿にて記載し、職員全員が情報の共有ができるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおよその流れはあるが、その中でも利用者主体を忘れず、まずは何事も利用者の声に耳を傾けてから、職員は動くよう対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日の更衣と、衣類が汚れた時は、さりげなく更衣を促している。外出では行きつけの美容院を利用したり、行きつけの服屋など、本人の望む店やこだわりを大切に、本人らしさを支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「できる力」を引き出したり、維持できるよう、毎食、利用者と共に、料理や盛りつけ、配膳を行っている。後かたづけや食器洗いに関しては、利用者話し合い、曜日ごとに当番を決めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個別の要望に応じた栄養ドリンクや宅配牛乳など、毎日決まった習慣時間にあわせて提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を記入、昼夜一人ひとりの状況に応じたパンツやパットを使い分け、排尿のパターン時間やシグナルサイン、夜間のみポータブルトイレの設置など、排泄機能の低下を維持し、予防できるように取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を行い、利用者との話し合いの中から、曜日ごとに風呂の順番を決めてトラブルのないようにしている。風呂の順番が、体調不良や外出、病院受診などによって変更になるときは、利用者説明し、お断りと了承をいただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時間や睡眠時間を把握して、生活習慣に応じた対応をしている。また、その日の睡眠状況によって、休息や昼寝を勧めたりしている場合もある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の得意な方、編み物・手芸・俳句など、日々その方の役割や趣味を活かした暮らしを支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いの中で能力勘案を行ったり、利用者側から「グループホーム側で預かって欲しい」とのことで、金庫に保管しているケースもあるが、いずれも買い物時には、財布を持って購入できるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材や日用品の買い物は、順番に同行を行い、重度の利用者も外出ができるようにしている。その方の希望に添って、日常的に個別外出ができるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別外出(利用者の行きたい所(家や墓参り、お寺))や、他の仲の良い利用者同士での外食など、要望に対して家族の協力も交えながら、実現できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話がかかってくると、プライバシーに配慮して、自室でゆっくり、ひとりで会話ができるように、電話の子機を利用する等、配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、近所の方が訪問に来られたときは、挨拶とゆっくり話ができるよう、お茶などでおもてなしを行い、時間に制限されることのないよう配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を掲げ、毎月の身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束ゼロの手引きの中から、勉強会を通して、認識している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を掲げ、毎月の身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束についての勉強会を通して、認識と理解を深めている。現在までは鍵をかけたこともなく、日々鍵をかけないケアに取り組んでいる。		グループホーム内の職員数が少ないため、緊急時や、利用者の安全の方を優先しなければならない自体が発生した場合などに、やむを得ず玄関を閉めることに関して、鍵をかけた時間や状況を細かく日誌に記載すること等の取り決めがある。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロア、キッチン、風呂場に分かれて、利用者を把握し、場所を離れる際は、職員同士で声をかけ合っている。夜間は一人なので、2時間ごとに巡回したり、事務所の真ん中で周辺を見渡せる位置にいる等の配慮をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や塗り薬、洗剤、ハサミは、鍵がかかる場所へ保管している。キッチンにある包丁は、夜間包丁入れ箱に保管して、利用者の手が届かない所に保管している。個人の爪切りやハサミは、家族と相談して、能力を勘案した取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年2回の防火訓練や法人の看護師による緊急時対応の勉強会、救命講習の参加によって、技術の向上や維持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故防止のための取り組みは定期的に行っているが、全ての職員が、急変時や事故発生時の対応を兼ね備えて、実践が可能とはいえない。	○	定期的な訓練回数を増やし、緊急受診や緊急処置の対応を慌てず、全ての職員が行えるようにする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回、防火訓練を実施しているが、地域との協力や理解に関しては働きかけが不十分である。	○	以後、運営推進会議にて話し合っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	毎月1回、リスクマネジメント対策委員会を開催し、職員間での利用者一人ひとりに起こりうるリスクの話し合いを始め、ご家族にはケアプランの説明時や状況報告、家族会、状況報告シートを通じて、理解をいただいている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	既往歴の把握と毎日のバイタルサイン測定、日々の状態を観察、記録、気づきを、職員間で申し送りすることで、体調の変化や異変時の早期発見に努めて、関係医療機関に受診できるよう対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬早読み表を作成して、事務所内に掲示し、職員が理解と把握に努めて、即時、家族の質問や疑問に対応できるようにしている。		薬剤師を講師に招いて、年2回薬の勉強会を開催し、職員の質と向上に努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立は野菜を中心としたメニューを作成して、必要に応じて、個別の便秘予防対策(毎朝、牛乳配達した牛乳を温めて提供)を図っている。運動では、散歩や適度な生活活動を通して、自然排便が促されるよう工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけや、習慣がない方はうがいの声かけができるよう、口腔内の清潔や感染予防に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活習慣や入居以前の食事量、嗜好などを、本人や家族に聞きながら対応している。また、食事チェック表を毎食記入することで、一人ひとりの摂取量を把握して、健康状態を管理している。献立作成の中から、季節や栄養バランスを考えた内容に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎月1回、感染予防対策委員会を開催し、指針やマニュアルの作成と見直し、衛生管理や食中毒に関する勉強会を行っている。		毎日、職員は健康管理を徹底するよう、健康チェック表にチェックして、感染予防対策を図っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の洗浄、殺菌、フキン類やコップ類の消毒、冷蔵庫の清掃と食品庫、冷蔵庫内の食材の賞味期限の確認、乾物類の開封時には開封時の日付記入など、日々の衛生、清潔、清掃の習慣に努めている。		毎月、感染予防対策チェックリストを記入して、衛生管理の徹底に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは清潔に、毎日清掃に努め、玄関には花を生けたりしながら、季節感を大事にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンは遮光のものを使用、共用の空間には、さりげなく季節の花を生けたり、廊下には写真や額を掲げ、ほっとくつろげるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファや畳、離れた所に丸テーブルを設置して、自由な思い思いの行動と、一人の時間を大切にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切な仏壇、自宅で愛用していたソファや趣味を活かした編み物、俳句道具、昔の写真など、昔の功績を称えられるような環境を工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の換気や気候がよい時は、自然の風をなるべく取り入れ、快適に過ごせるよう配慮している。季節と天気に応じた快適温度調整に努め、利用者の声や室内温度計を活用したり、各居室のエアコン設置によって、個別でこまめな対応を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの暮らしの中、手すりやスロープ段差がなく、歩行器や老人車がスムーズに操作できるような、広い廊下とフロアの開放感がある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見当識障害の工夫には、赤い扉のトイレや一人ひとりの部屋の前には、暖簾と表札を思い思いに作成して失敗を防ぎ、床や壁の汚れやシミによる混乱には、毎日の清掃によって清潔に保っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭で行事(スイカ割りや花火、バーベキュー)をしたり、天気のよい日には丸テーブルと椅子を設置して、お茶を楽しみ、縁台に座って日なたぼっこをしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日の買出しは、利用者と職員が1対1で地域のスーパーに出かけて、新鮮な食材を利用者の目で季節感を味わいながら選択していただいている。朝・昼・夕の毎食の食事作りの中で、利用者の「できること」を役割として引き出しながら、食材の切り込みや、料理の味付け、盛り付けから配膳、片付けまで、普通の暮らしがサポートできるように取り組んでいる。生活リハビリを兼ねながら、毎食後の清掃と清潔、感染予防に努め、室内の匂いにも気を使って、快適な生活が送れるように支援している。また、午後からは毎日の一人ひとりの入浴支援を欠かさず、利用者の声を聞きながら共同生活が円滑にいくよう対応している。その他としては、個別外出や日帰り旅行、月1回の家族会と季節の行事、月2回の状況報告を担当者よりご家族に伝え、ケース記録に残し、毎月担当者が記入した状況報告シートをご家族に渡して、利用者の日々の生活記録(身体状況や認知症状、気づいたこと、本人の気持ち)を目でも伝えられるよう努力して、信頼関係や話しやすい場面、気軽に相談、声かけしやすいよう職員と家族、利用者が手と手を取り合って支援している。